トピックス

TOPICS

資源循環素材による山中漆器産地の新たな挑戦

－ 漆器の廃材を活用した新技術の開発－

繊維生活部 梶井 紀孝 かじい のりたか

近年、限りある資源を有効に循環利用しつつ、新たな経済価値を生み出す「サーキュラーエコノミー」の実現が大きな社会課題となっています。こうした中、県内の山中漆器産地では、製造時に発生する木屑などの廃材を、漆器の材料として再び有効活用する製造工程の確立による高品質な循環型漆器の開発を目指して、産地企業３社、産業技術総合研究所、金沢工業大学、工業試験場の６者が連携して取り組んでいます。

本開発では、産業技術総合研究所が有する木質複合化技術を基に、挽物の廃材に樹脂を含浸・圧縮成形した素地を製作し、漆を塗り重ねた漆器を試作しました（図1）。この試作品について塗膜の付着性や耐洗浄性を評価しました。その結果、塗装前に表面を粗化処理し、生漆による下塗りを行うことで、塗膜の付着性が向上することが明らかになりした。さらに、耐洗浄性の評価では、塗膜に割れや剥がれの発生がなく、耐久性に優れていることが明らかとなりました（図2）。

今後は産地企業を中心とした６者で実用化に向けた技術開発を継続するとともに、工業試験場は製品開発に向けた支援を行ってまいります。



図1 廃材を用いた漆器の製造工程

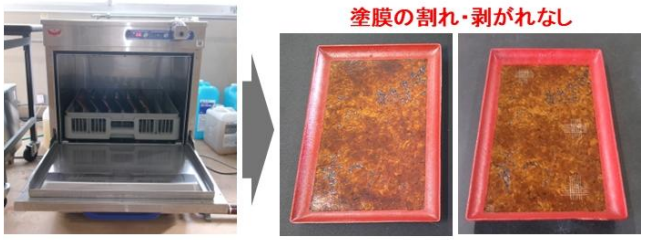


図2 耐洗浄性試験の結果